

(寄稿)

病院経営の戦略的エネルギーマネジメント

～ユーティリティサービスによる省エネ・省コスト・省CO₂の実現～

<はじめに>

昨今のエネルギーの需要と供給に関する動向から、病院経営においては、「災害時の水・ガス・電気の供給停止等のリスクマネジメント」と「エネルギーの効率的利用というエネルギーマネジメント」を戦略的に考えておく必要がある。

エネルギー効率の適正化と向上は、社会保障費や自然環境負荷の低減を可能とし、患者の治療に再投資する機会を増やし、病院スタッフの施設環境を整えることなどに寄与すると考えられる。

今回は、病院経営のなかでもエネルギーコストに関するマネジメント手法の一つを紹介する。本手法は、単に省エネルギー等だけでなく、新築・建替時の資金負担軽減、環境関連の補助金対象となる可能性、施設管理スタッフの業務負担軽減など、特に病院新築時の事業計画立案のうえで一考に価するものである。

建物が存続する間にかかる総コストを「ライフサイクル・コスト」と言う。このうち、点検・保守コストに次いで大きな部分を占めるのが、光熱水等にかかるコストだが、病院では、この光熱水費を削減する「省エネ対策」がほとんど進んでいないのが現状である。実際、病院は、他業種の多くの建物に比べて、床面積当たりのエネルギー消費量が高い。

東京都が、東京都病院協会の協力を得て行った調査では、省エネルギー対策を行わない理由として多く指摘されたのが、「予算がない」、「予算回収が不明」、「対策項目がわからない」などであった。

関電エネルギーソリューション（以下、「Kenes」）では、関西電力グループの一員として電気事業で培った技術力やノウハウを活かしながら、エネルギーに関するあらゆる課題をお客さまとともに考え、ベストソリューションの提案に努めている。その一つとして提供しているのが、「ユーティリティサービス」である。

これは、電力、空調、衛生設備などのユーティリティ設備の設計から建設、設備保有、省エネ運用、保全までを一括して管理し、ライフサイクル・コストの削減とともに、CO₂の排出量を削減し、環境にやさしい建物を実現しようというサービスである。

本稿では、このユーティリティサービスの概要を説明するとともに、新築時に導入し、初期投資の削減をはじめとしたメリットを実感いただいている事例、既存の建物において導入し、CO₂排出量の50%削減などを達成されている事例の2つを紹介する。

2012年6月25日

Healthcare note

(No. 12-09)

寄稿者名：
株式会社関電エネルギー
ソリューション
代表取締役常務
営業本部長 宇和川 寛

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
河添 麻美

野村證券株式会社
金融公共公益法人部